

【展示物】 ※ハーンの著書4点、自筆のイラストが収録されている書1点

	資料名	著者	刊行年	所蔵	備考
1	チタ（復刻版） Chita : A Memory of Last Island	ラフカディオ・ ハーン	原本：1889年	当館	ハリケーンで生き残った少女の話をもとに、自身のグランド島滞在（1884年8月～9月）の経験を生かして書かれた小説。海は意志を持つ一つの生命体であるにとらえる感覚などは、後の作品にもつながるもの。ハーンはグランド島で15年ぶりに海に親しんだ。
2	仏領西インド諸島の 2年間（復刻版） Two Years in the French West Indies	ラフカディオ・ ハーン	原本：1890年	当館	1887年（明治20）からの約2年間、ハーンはカリブ海のマルティニーク島に滞在した。その経験をまとめた本書には、きらめくような南国の自然と人々の生活が生き生きと描かれている。
3	知られぬ日本の面 影（復刻版） Glimpses of Unfamiliar Japan	ラフカディオ・ ハーン	原本：1894年	当館	1890年（明治23）の来日後第1作。山陰地方の海辺を旅した際の経験をもとにした作品が収録されている。「日本海の浜辺で」では、お盆になると死者の霊が海を渡るという「仏海」の信仰について記す。水泳好きのハーンは、霊地として知られる「加賀の潜戸」で泳ごうとして止められている。
4	霊の日本（復刻版） In Ghostly Japan	ラフカディオ・ ハーン	原本：1899年	当館	「焼津にて」は、静岡県焼津を初めて訪れた1897年（明治30）夏の体験をもとに書かれた随想。漁師町焼津の描写に始まり、灯籠流しの見学記録、海についての経験に基づく考察へと展開し、内容は次第に瞑想の色を深める。この年以降、ハーンは毎年のように焼津で夏休みを過ごした。
5	リ・エコー Re- Echo	小泉一雄著、 N.フェラーズ 編	1957年	当館	1900年（明治33）夏の焼津で行われた英語の授業で、ハーンは一雄にC.キングズリー（イギリスの詩人・小説家）の詩“The Three Fishers”を教えた。その際にハーンが描いた3枚の水彩画が掲載されている。